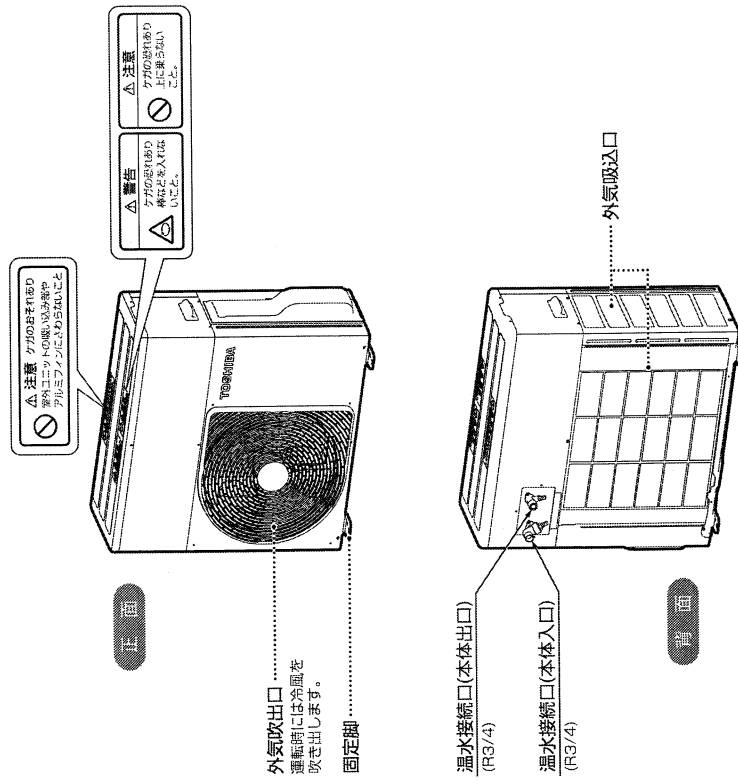
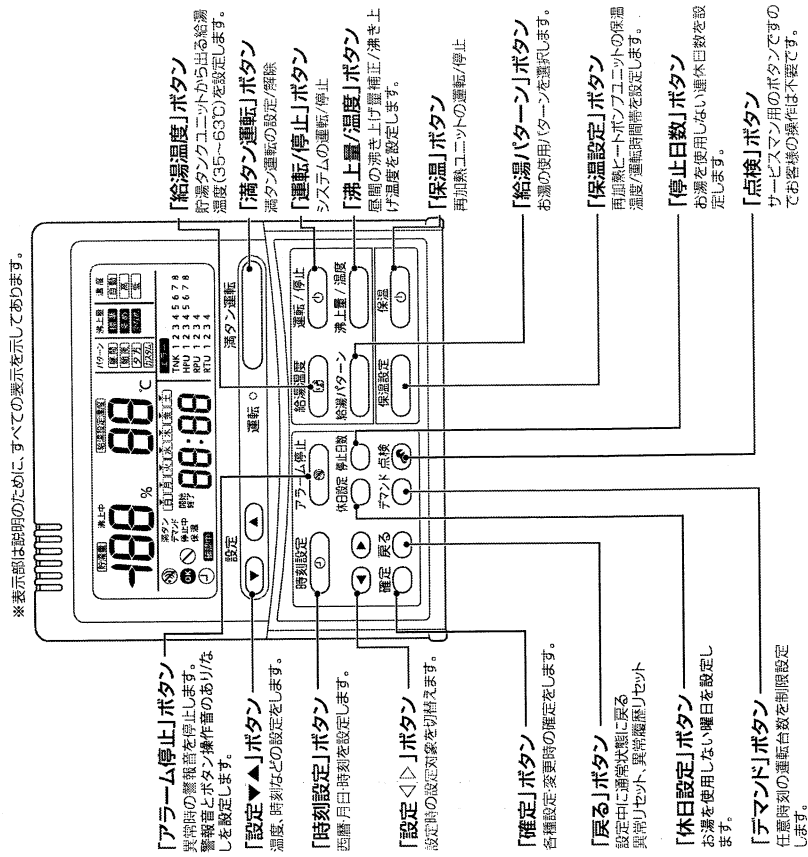


# 各部のなまえ (つぎ) 再加熱ヒートポンプユニット (オプション)

HWS-603H (循環回路保温用)  
HWS-453HR (タンク保温用)

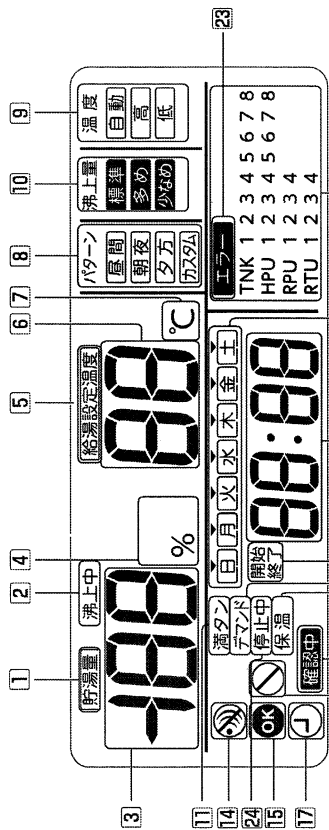


## リモコン 操作部



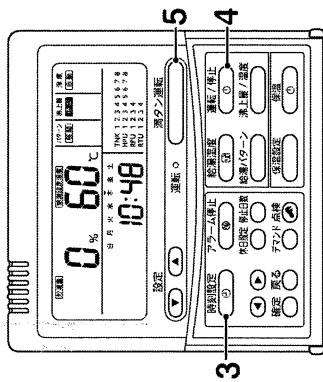
# 各部のなまえ (つづき)

## 表示部



1	通常貯湯量(%)表示中に点灯します。
2	ヒートポンプユニット沸上げ中(沸上げ番号変更時)に点灯します。
3	貯湯量表示部 ：接続制御器からの貯湯量データを点灯表示します。
4	通病時 ：接続制御器からの貯湯量データが異常なときに点灯します。
5	貯湯量(%)表示中に点灯します。
6	給湯設定温度(C)表示中に点灯します。
7	給湯設定温度(C)表示中に点灯します。
8	給湯パターン設定表示 設定している給湯パターンを点灯表示します。
9	沸上げ温度設定表示 通設定している沸上げ温度を点灯表示します。
10	沸上げ温度設定表示 設定している沸上げ温度を点灯表示します。
11	満タン運転時に点灯します。
12	再加熱ヒートポンプユニットに運転指令送信中に点灯します。
13	デマンドONのときに点灯します。
14	アラーム設定なしのときに点灯します。
15	設定が正常に完了したときに点灯します。 ※給湯設定温度、給湯パターン、沸上げ量、沸上げ温度設定時は点灯しません。
16	接続している制御器との通信中に一時点灯します。
17	時刻設定中に点灯します。
18	ボタン操作受付拒否時などに一時点灯します。
19	開始時刻と終了時刻を設定するときにそれぞれ設定する内容を点灯します。
20	時刻表示 通常時は時刻表示。異常発生時は異常コード、履歴確認中は日付。時刻設定中には西暦・月・日・時刻。
21	曜日表示：現在の曜日、設定曜日は▼ 休日設定曜日は□を点灯表示します。
22	ユニット情報表示 通常時は接続しているユニット名とユニット番号を点灯。異常時は異常発生ユニット名とユニット番号を点滅。点検モード中は対象のユニット名とユニット番号が点灯します。 TNK：メイン貯湯タンクユニット HPU：ヒートポンプユニット RPU：再加熱ヒートポンプユニット(HWS-603H) RTU：再加熱ヒートポンプユニット(HWS-453HR)
23	異常発生時に異常コードなどをあわせて点滅します。
24	停止日数設定システム停止させた場合に、停止日数(時刻表示番7セグ)と合わせて点灯表示します。

# 使いかた 運転の仕方



## 設定手順

1. タンクを満水にする  
据付時は、ヒートポンプユニットのエア抜きを実施してください
2. 漏電しゃ断器を「入」にする
3. 現在時刻と曜日を設定する
  - ・ 設定・変更のしかたは、現在時刻の合わせかた(16ページ)を参照願います。必ず正しく設定してください。
 ※出荷状態は「西暦2010年10月1日12時00分」です。

## 4. 「運転/停止」ボタンを押す

- ・ 運転を選択した場合、LEDが点灯します。

## 満タン運転



## 5. 「満タン運転」ボタンを押す

- ・ 貯湯量100%になるまで強制的に沸き上げたあと自動的に沸き上げを停止します。その後は貯湯量を監視して、お湯切れしないように沸き上げ運転します。(基本は後置優先)

## お知らせ

- 諸条件にもよりますが、沸上げ量の目安は、65℃沸上げで約200L/Hです。

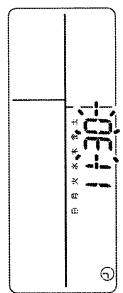
## 使いかた (つづき)

### 現在時刻の合わせかた

- 現在時刻は、西暦および24時間表示で登録します。
  - 工場出荷状態は、西暦2010年10月1日12時00分となっておりますので、必ず現在時刻の設定を行ってからご使用ください。
- 例) 西暦2010年11月30日15時39分にあわせることで説明します。

#### 4. 日を設定する

- 設定ボタン[▼/▲]を押し、日を30日に合わせます。

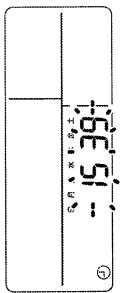


※ 曜日、月日の設定より自動に設定されます。

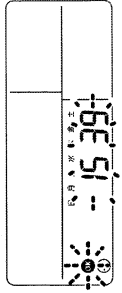
- 日を、30に合わせたら、「確定」ボタンを押します。

#### 5. 時刻を設定する

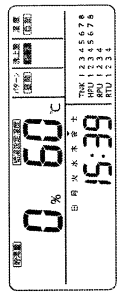
- 設定ボタン[▼/▲]を押し、時刻を15時39分に合わせます。
- ※ [▼]または[▲]を押しして10分ずつ増減します。



- 時刻を、15:39に合わせたら、「確定」ボタンを押します。



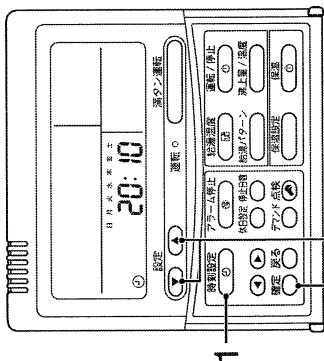
- ※ 時刻設定が完了すると「OK」マークが3秒間表示されます。



- ※ 「OK」マークが消えると使用中の表示になり、設定した時刻が表示されます。西暦と月日は表示されません。

#### お知らせ

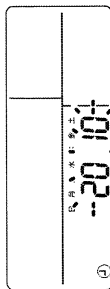
- 設定中に15秒以上のボタン操作が無い場合は、通常の画面に戻りそれまでの設定内容は記憶されません。再度時刻設定する場合は、設定手順1から行ってください。
- 設定途中で一つ前の状態に戻す場合は「戻る」ボタンを押してください。



### 2.3.4.5

#### 設定手順

1. 「時刻設定」ボタンを押す
2. 西暦を設定する
  - 西暦を2010に合わせます。
  - 設定ボタン[▲]を押すと1年ずつ進み、設定ボタン[▼]を押すと1年ずつ戻ります。



- 西暦を、2010に合わせたら、「確定」ボタンを押します。

#### 3. 月を設定する

- 設定ボタン[▲/▼]を押し、月を11月に合わせます。



- 月を、11に合わせたら、「確定」ボタンを押します。

### 沸上げ量の設定

- 沸き上げ量の設定は、3パターンあります。ご使用状況により選択してください。

表示パターン	想定される使用状況
標準	想定される標準的な使用状況での設定量です。
多め	標準に対して、多め(+10%)に沸き上げます。
少なめ	標準に対して、少なめ(-10%)に沸き上げます。

- 例) 「標準」から「多め」に設定を変更することで説明します。

#### 設定手順

1. 「沸上量/温度」ボタンを押す
  - 「沸上量」が点灯していることを確認してください。
  - 点灯していない場合は、再度「沸上量/温度」ボタンを押してください。
2. 設定ボタンの「▼/▲」を押し、「多め」表示にする
  - 設定ボタンによるパターン変化

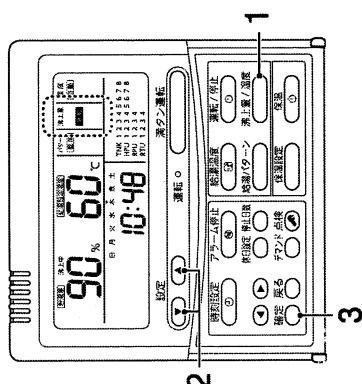
「▲」の場合

→ 標準 → 少なめ → 多め

「▼」の場合

→ 標準 → 多め → 少なめ

#### 3. 「確定」ボタンを押す



#### お知らせ

- 設定中に15秒以上操作がない場合は、通常の画面に戻ります。
- 設定を途中でキャンセルする場合は「戻る」ボタンを押してください。

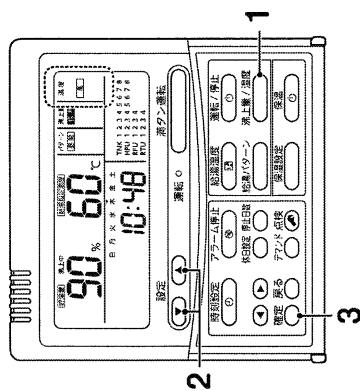
## 使いかた (つづき)

### 温度の設定

● 湯さ上げ温度の設定は、3ボタンあります。ご使用状況により選択してください。

表示ボタン	設定される使用状況
自動	外気温により、湯上げ温度が異なります。
高	外気温に関係なく湯上げ温度 70℃
低	外気温に関係なく湯上げ温度 65℃

例)「自動」から「高」に設定を変更することで説明します。



#### お知らせ

- 設定中に15秒以上操作がない場合は、通常の画面に戻ります。
- 設定を途中でキャンセルする場合は「戻る」ボタンを押してください。

#### 設定手順

1. 「湯上量/温度」のボタンを2回押す
  - ・「温度」が点灯していることを確認してください。
  - ・点灯していない場合は、再度「湯上量/温度」ボタンを押してください。
2. 設定ボタンの「▼/▲」を押し、ボタンを「高」表示にする
  - ・設定ボタンによるボタン変化

▼の場合  
→ 自動 → 高 → 低

▲の場合  
→ 自動 → 低 → 高

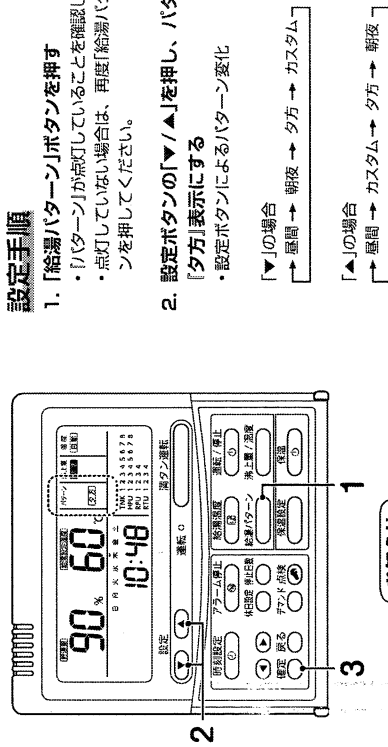
3. 「確定」ボタンを押す

### 給湯ボタンの設定

● 給湯ボタンの設定は、4ボタンあります。ご使用状況により選択してください。

表示ボタン	設定される使用状況
風調	給湯量が風間まんべんなく使用される傾向多い福祉施設・病院・給食施設などを想定
朝夜	給湯量が朝と夜に集中的に使われるホテル・スポーツジムなどを想定
夕方	給湯量が夕方に集中的に使われる寮などを想定
カスタム	施設に使用量に応じたカスタムボタンで、各種の入力設定が必要です。

例)「風調」から「夕方」に設定を変更することで説明します。



#### お知らせ

- 設定中に15秒以上操作がない場合は、通常の画面に戻ります。
- 設定を途中でキャンセルする場合は「戻る」ボタンを押してください。

#### 設定手順

1. 「給湯ボタン」ボタンを押す
  - ・「給湯」が点灯していることを確認してください。
  - ・点灯していない場合は、再度「給湯ボタン」ボタンを押してください。
2. 設定ボタンの「▼/▲」を押し、ボタンを「夕方」表示にする
  - ・設定ボタンによるボタン変化

▼の場合  
→ 風調 → 朝夜 → 夕方 → カスタム

▲の場合  
→ 風調 → カスタム → 夕方 → 朝夜

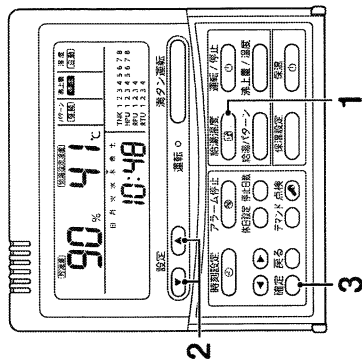
3. 「確定」ボタンを押す

## 使いかた (つづき)

### 給湯温度の設定

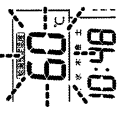
● 給湯温度の設定を変更します。設定温度は、35℃から63℃で1℃刻みです。

例) 60℃から41℃に設定を変更することで説明します。



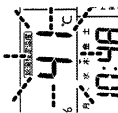
#### 設定手順

1. 「給湯温度」ボタンを押す



※ 給湯温度の部分が高滅します。

2. 設定ボタンの「▼」を押し、給湯温度を「41℃」にします



※ 給湯温度の部分が高滅します。

3. 「確定」ボタンを押す

● 設定中に15秒以上操作がない場合は、通常の画面に戻ります。  
● 設定を途中でキャンセルする場合は「戻る」ボタンを押してください。

### デマンドの設定

● デマンドは、任意の時間の運転台数を制限します。  
● 設定時間内は同時に運転する台数を制限し、システム全体の運転電力を制限します。

#### デマンド制御時間の設定

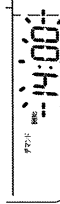
開始時間を13:00から14:00、終了時間を16:00から17:00に変更することで説明します

1. 「デマンド」ボタンを4秒以上押し(長押し)

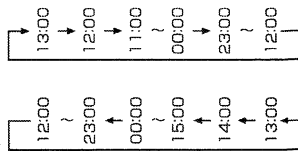


※ 設定されている開始時間と「デマンド」マークが表示されます。

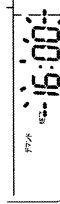
2. 設定ボタンの「▼/▲」を押し、開始時間を14:00に変更する



「▲」の場合「▼」の場合

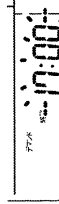


3. 「確定」ボタンを押す

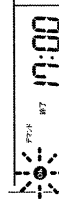


※ 設定されている終了時間が表示されます。

4. 設定ボタンの「▼/▲」を押し、終了時間を17:00に変更する



5. 「確定」ボタンを押す

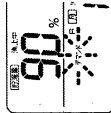


※ 「OK」マークの表示が数秒間表示されたのち、通常の画面に戻ります。

### デマンドの設定・解除

<設定>

「デマンド」ボタンを押す

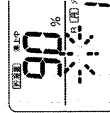


● 「デマンド」マークが表示され、デマンドありの状態になります。

<解除>

再度「デマンド」ボタンを押す

● 「デマンド」マークの表示が消え、デマンドなしの状態になります。



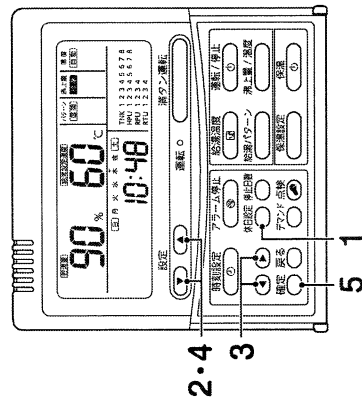
#### お知らせ

- 設定中に15秒以上操作がない場合は、通常の画面に戻ります。
- 設定を途中でキャンセルする場合は「戻る」ボタンを押してください。

## 使いかた (つづき)

### 休日設定

- 曜日ごとの沸き上げをしない日 (以下:休日と言います) を設定します。  
休日設定の前日22時から当日の21時59分までの沸き上げを行いません。
- 例) [日] [土]を休日にするので説明します。  
この設定では金曜日の22時から日曜日の21時59分までの沸き上げを行いません。

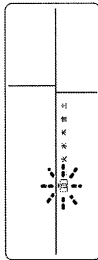


#### お知らせ

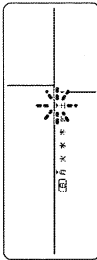
- 設定中に15秒以上操作がない場合は、通常の画面に戻ります。
- 再度、やりなおしてください。
- 設定を途中でキャンセルする場合は「戻る」ボタンを押してください。

### 設定手順

1. 「休日設定」ボタンを押す  
※ [日]の上に▼が点灯します。
2. 「日」を休日にする  
● 設定ボタンの「▼/▲」どちらかを押し、[日]を□で囲みます。

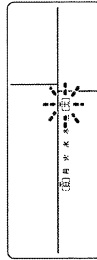


3. 「土」を設定する  
● 「◀/▶」を押し、「土」の上に「▼」を表示させます。

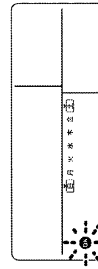


※ 「土」の上に▼が点灯します。

4. 「土」を休日にする  
● 設定ボタンの「▼/▲」どちらかを押し、「土」を□で囲みます。



### 5. 「確定」ボタンを押す

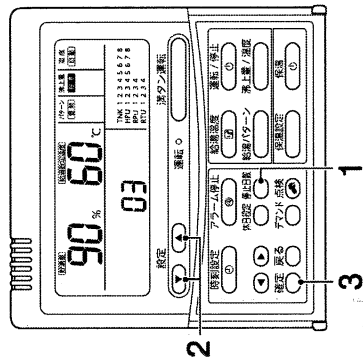


※ 「OK」マークの表示が出た後、通常表示に戻ります。

### 停止日数設定

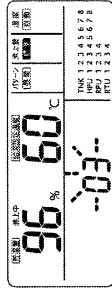
- 連続して沸き上げをしない日数 (以下:停止日数と言います) を設定します。
- 最大15日の設定が可能です。これ以上の停止は「運転/停止」ボタンで行ってください。

例) 停止日数を3日にすることで説明します。



### 設定手順

1. 「停止日数」ボタンを押す  
※ 停止日数が1日である「01」が表示されます。
2. 停止日数を3日に設定する  
● 設定ボタンの「▼/▲」を押し、「03」にします。



1. 「設定」により「00」日を設定すると解除されます。
2. 「停止日数」ボタンを4秒以上押し (長押し) と解除されます。

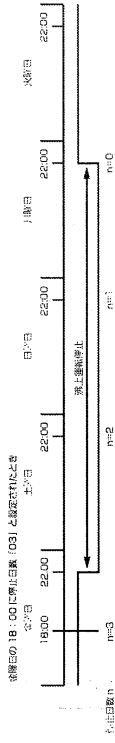
#### お知らせ

- 設定中に15秒以上操作がない場合は、通常の画面に戻ります。
- 再度、やりなおしてください。
- 設定を途中でキャンセルする場合は「戻る」ボタンを押してください。

### 停止日数の設定例

停止日数は設定した当日は通常の運転を行います。次の日から沸上運転を停止します。  
※ 本給湯システムでは電力契約の購読から22:00~21:59を1日とカウントしています。

- 土曜・日曜・月曜にお湯を使用しない場合の設定方法  
金曜日の22時から停止日数を「03」で設定します。  
月曜日の22時から沸き上げを開始して火曜日の朝にはお湯が使用可能となります。

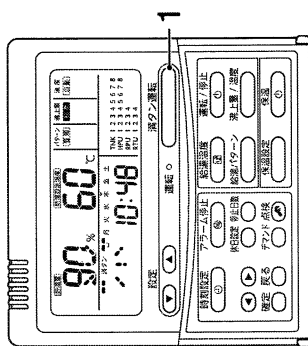


- 22:00移行に設定した場合  
金曜の23:00に停止日数を「03」とした場合はお湯が使用可能になるのは水曜日の朝になります。

## 使いかた (つづき)

### 満タン運転の設定

- 満タン(貯湯量100%)まで強制的に沸き上げます。満タンまで沸き上がると表示が消え、設定が解除されます。
- 通常よりもお湯の使用量が急に多くなる場合になどに使用します。



#### 手順

1. 「満タン運転」ボタンを押す

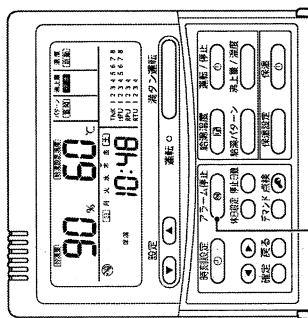
※ 「満タン」マークの表示が消え、満タン運転中であることを表わします。

満タンの表示は、次の条件により消えます。

- 条件1：「満タン運転」ボタンを押し、解除したとき
- 条件2：満タンまで沸き上がったとき

## アラーム停止

- アラーム停止には、以下の2通りの機能があります。
- (1) アラーム音がなっているのをとめる
- (2) アラーム音をならさないように設定する



#### 設定手順

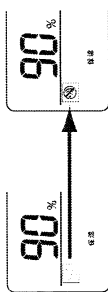
1. アラーム音がなっているのをとめる  
「アラーム停止」ボタンを押してください。

アラーム音は、製品またはシステムに異常が発生したときになります。  
異常の原因を取り除いてください。

2. アラーム音をならさないように設定する

＜なる設定からなる設定＞

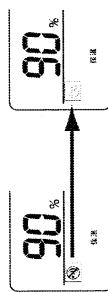
- ・「アラーム停止」ボタンを長押し(4秒以上)してください。



※ ①「マークが部し」ならさない設定  
なる設定

＜ならさない設定からなる設定＞

- ・「アラーム停止」ボタンを長押し(4秒以上)してください。



※ ②「マークが部し」なる設定  
ならさない設定

アラーム音は、製品またはシステムの異常が発生したときお知らせする機能です。なる設定でお使いになることをおすすめします。  
アラーム音をならさない設定にした場合は、ボタン操作音もならなくなります。

## 使いかた (つづき)

### 保温

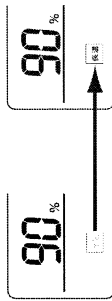
- 再加熱ユニットが接続されている場合のみ、設定できます。
- <機能>
- 再加熱ユニット(RPU、RTU)の運転開始、停止を操作します。
- <操作・動作>
- 「保温」ボタンを押すことで、再加熱ユニットの運転、→停止 →運転…と切り替わります。
- 保温中は液晶に「保温」を表示します。
- 再加熱ユニットが接続されていない場合は、「保温」ボタンを押しても無効です。

※ 「RTU」または「RPU」が点灯で再加熱ユニットが接続されています。

#### 設定手順

1. 保温運転を設定する

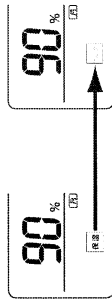
● 「保温」ボタンを押す。



※ 「保温」表示が点灯し保温設定になる

2. 保温運転をやめる

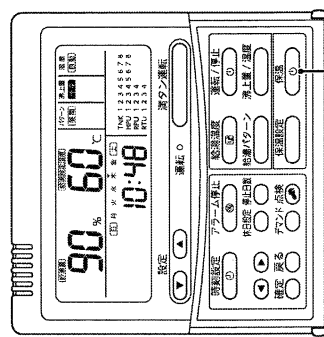
● 「保温」ボタンを押す。



※ 「保温」表示が消え保温運転を停止します。

#### お知らせ

- 保温運転は、タンクを保温する運転ではありません。
- タンクと選合格の配管内を再加熱ユニットにて保温する機能です。



1・2

ユニット情報表示  
 TNK：メイン貯湯タンクユニット  
 HPU：ヒートポンプユニット  
 RPU：再加熱ヒートポンプユニット(HWS-603H)  
 RTU：再加熱ヒートポンプユニット(HWS-453HR)

## 取扱説明 (つづき)

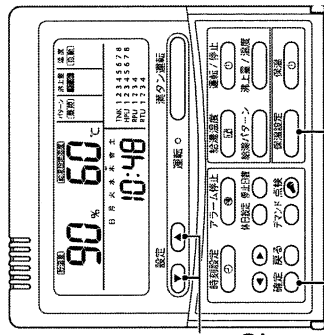
### 保温設定

- 再加熱ユニットが接続されている場合のみ、設定できます。
- 配管内の給湯温度低下防止のために再加熱ユニットで保温します。

保温設定は、

- ① RPUの温度
- ② RPUの開始時間
- ③ RPUの終了時間
- ④ RPUの再加熱ユニットが接続されている場合
- ⑤ RTUの開始時間
- ⑥ RTUの温度
- ⑦ RTUの開始時間
- ⑧ RTUの終了時間
- ⑨ RTUの温度
- ⑩ RTUの終了時間

※ 「RPU」または「RTU」が点灯で再加熱ユニットが接続されています。

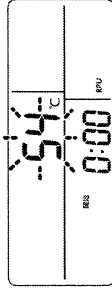


2・4  
6・8  
10・12

ユニット情報表示  
 TNK：メイン貯湯タンクユニット  
 HPU：ヒートポンプユニット  
 RPU：再加熱ヒートポンプユニット(HWS-603H)  
 RTU：再加熱ヒートポンプユニット(HWS-453HR)

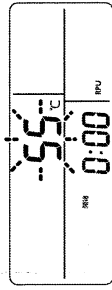
2. RPUの温度を設定する

● 設定ボタンの「▼/▲」を押し、希望温度にあわせます。



#### 設定手順

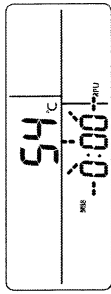
1. 「保温設定」ボタンを押す



※ 「RPU」と「開閉」が点灯し、「温度表示」が点滅します

※ 「RTU」のみ接続されている場合は「RTU」が表示され、RTUの温度を設定するから操作してください。

3. 「確定」ボタンを押すと画面の点滅が変わる



※ 「温度表示」が点灯になり「時間表示」が点滅します。

4. RPUの開始時刻設定をする

● 設定ボタンの「▼/▲」を押し、開始時刻をあわせます。



#### 設定範囲

- 時刻設定は、24時間設定
- 設定温度範囲
- RPU：40℃から55℃ 1℃刻み
- RTU：40℃から62℃ 1℃刻み



# 安全点検

事故を防止するために下記の安全点検を必ず行なってください。

**警告**

- 元電源の漏電遮断器の動作を確認する  
漏電遮断器が故障のまま使用すると、漏電のとき感電の原因になります。
- 差し弁点検時は、排水管に手を触れないやけどをすることがあります。

**注意**

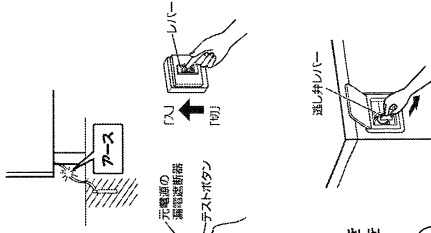
- 差し弁を点検する  
点検しないと貯湯タンクユニットや配管が破損したり差し弁から水漏れしたりすることがあります。
- 凍結防止対策を確認する  
凍結で配管が破損しお湯が吹出してやけどをすることがあります。
- 水漏れを点検  
配管接続部、水抜き、専用止水栓から水が漏れていないか日常確認してください。

## 安全点検

### 1. 元電源の漏電遮断器の動作確認

漏電遮断器は、万一漏電したとき自動的に電気を切るための安全装置です。  
●年に2～3回は、漏電遮断器の動作確認を次のように行ってください。

- (1) アース線が途中で切れていないか確認してください。
- (2) テストボタンを押してください。  
\*漏電遮断器のレバーが「切」[OFF]になれば、正常です。
- (3) テストのあととは、必ずレバーを「入」[ON]にもどしてください。



### 2. 差し弁の動作確認

年に2～3回は、差し弁動作をチェックしてください。  
●差し弁点検扉を開いて差し弁レバーを事前に引いてください。排水し、戻したとき排水が止まれば正常です。(排水が確認できないときは水の首で排水されたことを確認してください)

- 差し弁の弁部に水アカの付着や、異物のカミ込みがあると、差し弁より常にお湯が流れ出て、湯量不足の原因となります。
  - 差し弁は水からお湯になるときの膨張分を排水し、貯湯タンクユニットを守る安全装置です。
- 差し弁が正常に動作しないと、タンクが変形し水漏れや故障の原因になります。

### 3. 水漏れの点検

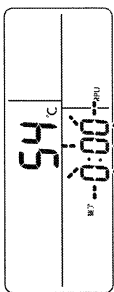
●ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニット、再加熱ヒートポンプユニットを設置した床面に水が漏れていないか確認してください。

### 4. ドレン排水の点検

●ヒートポンプユニット、再加熱ヒートポンプユニットのドレン水が途中で漏れていないか、また確実排水溝に流れていることを確認してください。

## 使いかた (つづき)

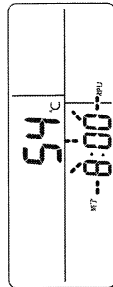
### 5. 「確定」ボタンを押すと画面の点滅が変わる



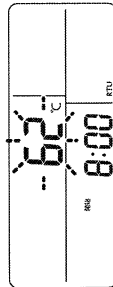
\*「開始」が消灯し「終了」が点灯し「時間表示」が点滅します。

### 6. RPUの終了時刻設定をする

●設定ボタンの「▼/▲」を押して、終了時刻を合わせます。



### 7. 「確定」ボタンを押すと画面の点滅が変わる

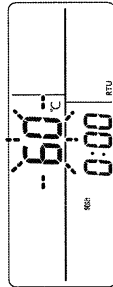


\*「時間表示」が消灯し「RPU」[終了]が点灯し「RTU」[開始]が点灯し、「温度表示」が点滅します。

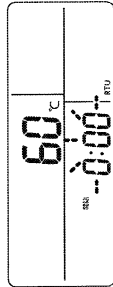
\*RTUが接続されていない場合には、「OK」マークの表示が出た後、通常の表示に戻ります。

### 8. RTUの温度を設定する

●設定ボタンの「▼/▲」を押して、希望温度に合わせます。



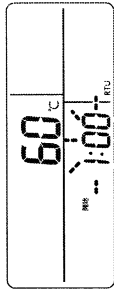
### 9. 「確定」ボタンを押すと画面の点滅が変わる



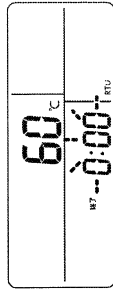
\*「温度表示」が消灯し「RTU」[開始]が点滅します。

### 10. RTUの開始時刻設定をする

●設定ボタンの「▼/▲」を押して、開始時刻を合わせます。



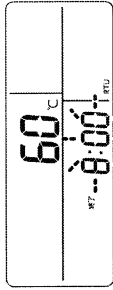
### 11. 「確定」ボタンを押すと画面の点滅が変わる



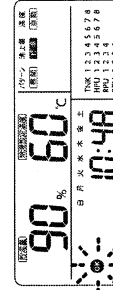
\*「開始」が消灯し、「終了」が点灯し、「時間表示」が点滅します

### 12. RTUの終了時刻設定をする

●設定ボタンの「▼/▲」を押して、終了時刻を合わせます。



### 13. 「確定」ボタンを押す



\*「OK」マークの表示が出た後、通常表示に戻ります。

### お知らせ

- 設定中に15秒以上操作がない場合は、ひとつ前の設定に戻ります。
- 再度、やりなおしてください。
- 設定途中で一つ前の状態に戻す場合は「戻る」ボタンを押してください。

## 凍結防止について

1. ヒートポンプユニット内部水配管の凍結防止
  - ・外気温が下がる、循環ポンプが運転します。さらに温度が下がるとヒートポンプユニットを自動的に運転して、ヒートポンプユニット内部水配管の凍結を防止します。

### 2. 凍結防止ヒーターによる方法

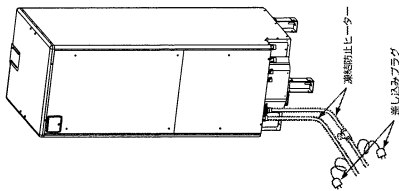
- ・気温が0℃以下になると、保温工事をしていても凍結のおそれがありますので、据付説明書どおりの配管工事をしてください。
- ・水が凍るような時期になりましたら、右図の凍結防止ヒーターの差し込みプラグを100Vのコンセントに差し込んでください。暖かくなりましたら、プラグをコンセントから抜いてください。

#### お願い

- ・電源は「入」のままにしてください。通電してないと凍結防止のための運転ができません。

### 3. 排水・水抜きによる凍結防止

- ・外気温が凍結温度まで下がるような時期に数日間お使いにならないときは、31ページの「通水後お使いにならないとき」に従って排水・水抜きを行なってください。



## 通水後お使いにならないとき

通水確認後や使用開始後、外気温が凍結温度まで下がるような時期に、長期間お使いにならないときは、下記の方法にしたがって対応してください。

### 注意

- 1ヵ月以上使用しないときは元電源の漏電遮断器を「切」にして貯湯タンクユニットの排水をする

水質が変化することがあります。

### 対応方法

- お使いにならないときは、次の手順で各部の排水および水抜きを行なってください。タンクの水は要するおそれがありますので、必ずすべて排水してください。

### 排水・水抜き方法

- ① 元電源の漏電遮断器のレバーを「切」にします。
- ② 専用止水せんを閉じます。ヒートポンプユニットとの接続パイプ上の止水せんは開のままとしてください。
- ③ 差し弁を開き、差し弁のレバーを立てて差し弁を開きます。
- ④ 給水せんの湯測を開きます。
- ⑤ すべての貯湯タンクユニット下部の排水せんつまみを回し、排水せんを開きます。約40～50分でメイン貯湯タンクユニットの水が抜けます。サブ貯湯タンクユニットが接続されている場合は、メイン貯湯タンクの排水後、メイン貯湯タンクユニットに近いタンクの接続口左についているドレン栓を開けて排水を行ってください。約40～50分で水が抜けます。抜き終わったら同様の手順で順次、隣のタンクの排水を行ってください。
- ⑥ 排水口から水が出なくなったら、貯湯タンクユニット下部のドレンせんを4カ所開きます。(給水接続部、給湯接続口部、接続口左部、接続口右部の計4カ所)。水が抜けていくときはドレンせんをはずしてください。(必要に応じて排水を洗面器等で受けてください)
- ⑦ 貯湯タンクユニットのヒートポンプユニット接続口部向き、ヒートポンプユニット接続口部戻り部接続口ドレンせんを開きヒートポンプユニットの水抜きを行います。(必要に応じて排水を洗面器等で受けてください)
- ⑧ 各部の水抜きが終了したら給湯せん、貯湯タンクユニット内の排水せんを開にし、差し弁レバーを元に戻します。
- ⑨ 先ほど開にしたドレンせんをすべて閉じます。
- ⑩ 各部の水抜きが完了後は漏電遮断器のレバーを「切」のままにし、次にご使用になるまで通電しないでください。

### 再び使用するとき

- ① 排水せんを閉じます。(通常は閉じています)
- ② 専用止水せんおよび差し弁を開きます。
- ③ 排水口から水が出てきたら閉じます。(見えないときは音で確認してください)
- ④ 給湯せんを開けて水が出てくることを確認します。給湯せんを開けてもすぐに出てこない場合には、しばらく開けたままとしてください。また、空気が強まる場合にも、しばらく開けたままとして空気が出なくなったらことを確認してください。(貯湯タンク内が水の場合には出ないときがあります。お湯が沸いてから給湯せんを開けて確認してください)

## 取扱説明 (つづき)

